



最近になり、新型コロナウイルス罹患患者数が右肩上がりに増えております。これは冬になり、湿度が低くなることで、ウイルスが空気中に漂う時間が長くなることに加え、寒さで換気をする回数が減ってしまうことが要因です。さらに、のどの粘膜が乾燥していると、ウイルスがのどに付着しやすくなるともいわれています。

そのため厚生労働省では、“「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法”を提示しています。新型コロナウイルスへの感染が完全に防げるものではありませんが、この機会に今一度、仕事場の換気状況を確認されてみてはいかがでしょうか？

■ 換気が重要！ 必要な換気量は満たされていますか？

オフィスの換気は「ビル衛生管理法（建築物における衛生的環境の確保に関する法律）」の基準に適合していれば問題ないとされていますが、冬場はどうしても換気がおろそかになりやすい時期です。当社では二酸化炭素・温度・相対湿度を測定し、また設置されている機械換気装置の実測による評価も含めて必要換気量（一人あたり毎時30m³）を満たしているかどうかの測定を行います。

表1.ビル管理法における空調設備を設けている場合の空気環境の基準

項目	基準
ア. 浮遊粉じんの量	0.15 mg/m ³ 以下
イ. 一酸化炭素の含有率	100万分の10以下（= 10 ppm以下）
ウ. 二酸化炭素の含有率	100万分の1000以下（= 1000 ppm以下）
エ. 温度	1.17℃以上28℃以下 2. 居室における温度を外気の温度より低くする場合は、その差を著しくしないこと。
オ. 相対湿度	40%以上70%以下
カ. 気流	0.5 m/秒以下
キ. ホルムアルデヒドの量	0.1 mg/m ³ 以下（= 0.08 ppm以下）

■ 【参照】推奨される換気の方法（冬季）

①換気機能のついた暖房器具がない→自然換気（窓の開放）による方法

暖房器具を使い、居室の温度 18℃以上 かつ、相対湿度40%以上を維持

パターン1（温湿度が維持できる）

- 一方向の窓を常時開放による連続換気を行うこと（加湿器併用可）

パターン2（温湿度が維持できない）

- 窓を十分に解放できない場合は、可搬式の空気清浄機を併用

パターン3

- 窓を解放する

②換気機能のついた暖房器具がある→機械換気による方法

暖房器具を使った、居室の温度 18℃以上 かつ、相対湿度40%以上を維持

- 外気取り入れ量等により必要換気量（1人あたり30m³/1時間）を確保

※換気についての詳細は環境省ホームページをご参照ください。

『冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法』

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15102.html

